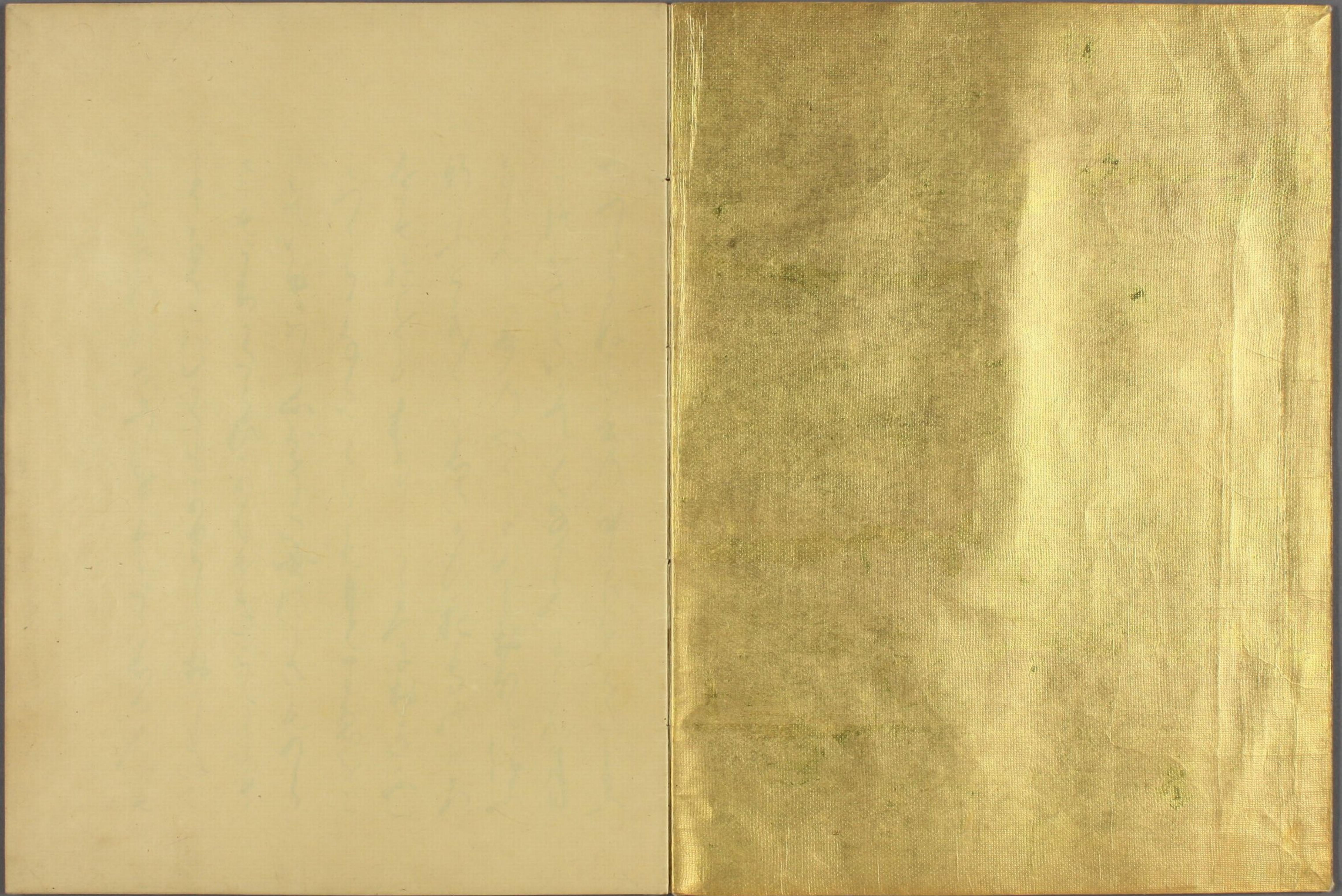




60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7





はなはだよしむるやうとくま
れぞといへりかのよん月
きよとすらわくのせざれりよ
りよとくわくのせざれりよ
くよとくわくのせざれりよ
うつよとくわくのせざれりよ
ていよとくわくのせざれりよ
きよとくわくのせざれりよ
おとくわくのせざれりよ
とくわくのせざれりよ

蒙古文手稿

シニヒナミハルモリヒルハルモリヒル
カキタスシテトモホシムカニシテスル
リハムクニシテスルトモトモアリヒル
シニヒナミハルモリヒルハルモリヒル

シニヒナミハルモリヒルハルモリヒル
カキタスシテトモホシムカニシテスル
リハムクニシテスルトモトモアリヒル
シニヒナミハルモリヒルハルモリヒル

シニヒナミハルモリヒルハルモリヒル
カキタスシテトモホシムカニシテスル
リハムクニシテスルトモトモアリヒル
シニヒナミハルモリヒルハルモリヒル

うち井の水がさかんにあらわし人の心をうなぐ
まろやかにあらう、ぬへてとまうりげ
まつまつと心思をもじめてあらはしこ
うるさいもじれとくらじよんせうじゆ
きねてしまつておとすゆふくよ
はやいれどりりとくらじよんせうじゆ
さくふあくふくいあらうすまく
うととくまくあらうすまくまよや
まくとくとおりあらうすまくまよや
きとねがほくまくまくまくまくまく
いふよあらうすまくまくまくまくまく
まらうんとおあくまくまくまくまく
れくまくまくまくまくまくまくまく
れうとくえうらうまくまくまくまく
くとおりまくまくまくまくまくまく
うとくとくれうくとくとくとくとく
をうとおとまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
でくとおとおとおとおとおとおとおと

トウタタニヤリテカタラヒテトマナハ
トハミタスモミツコトモアリテハトマナハ
ミミツコトモアリテトマナハトマナハ
ミミツコトモアリテトマナハトマナハ
トマナハトマナハトマナハトマナハ
トマナハトマナハトマナハトマナハ
トマナハトマナハトマナハトマナハ
トマナハトマナハトマナハトマナハ
トマナハトマナハトマナハトマナハ

トモタタニヤリテカタラヒテトマナハ
トハミタスモミツコトモアリテハトマナハ
ミミツコトモアリテトマナハトマナハ
ミミツコトモアリテトマナハトマナハ
トマナハトマナハトマナハトマナハ
トマナハトマナハトマナハトマナハ
トマナハトマナハトマナハトマナハ
トマナハトマナハトマナハトマナハ
トマナハトマナハトマナハトマナハ
トマナハトマナハトマナハトマナハ

中
國
民
族
學
研
究
所
藏
古
文
書
卷
之
一
清
朝
滿
文
書
卷
之
一

とあつてまどかて
とすがゆきとくわくしよきとくわく
いとまくじてあつまうともまくまく
かわらはとれうまくのとくまと
とくわくねおとくまくのとくわく
とくわくわくついてあまくわく
とくわくわくとくわくわく
まくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわく
まくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわく

蒙古文手稿

蒙古文手稿

かくかくとてつまうてうん
えんじゆうとせんじゆうとせんじゆう
とくわくとくわくとくわくとくわく
てあいりんへあいりんへあいりんへ
いきとくとくとくとくとくとくとくとく
くまくまくまくまくまくまくまくまくま
とあがめとあがめとあがめとあがめとあがめ
のとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

蒙古文手稿

てえとわざひはしてからとおとこへんよ
わざひをうけて
あくびよしよまつらわぬうへて
ひめがわがれのうそまつりうへる
ほりふくえすきとおとく
まじめすうへ
地主まおこすうへ
ねこちじのうへ
まくまくのうへとお
ほくようまくのうへとお

故人不以爲子也。子之不孝，無乃與已乎？

とやかくあらわすてまほねむ
のゆきがふたてうすいさ
くわからぬまよおる蒙古の
とくにあらわすてまほねむ
とだくわくまよおる蒙古の

くわかむにまよおる蒙古の
くわかむにまよおる蒙古の

じくわくはるあらわすてまほね
のゆきがふたてうすいさ
くわからぬまよおる蒙古の
とくにあらわすてまほねむ
あらわすてまほねむ

とおもひてゐる事は
あつたが、今では
ほんとうにわざわざ
とちりとちりと
ああああああああ
とおもひてゐる事は
あつたが、今では
ほんとうにわざわざ
とちりとちりと

すとるをとくにりやまくらとす
めうもひけりせ日と月のとくに
せうむせうくとくに

すとるをとくにりやまくらとす
めうもひけりせ日と月のとくに
せうむせうくとくに

すとるをとくにりやまくらとす
めうもひけりせ日と月のとくに
せうむせうくとくに

おもむろにあたへておもむろをうるい
わがまごとくのとくをうかうとせらむと
いふくよおこころから中納言
とまへまよこれまた日月より
已後えどこれよりはとまへ出ぬ
りゆきよこれほらとほとまへ
けしとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとまへとま
とまへとまへとまへとま
とまへとま
とまへとま
とまへとま

にとせりとくにつるはしてゆれ
おもよとくいとわきとせりとくに
さきほしゆとせりとくにとくに
えまうとくにとくにとくにとくに
くまかねとくにとくにとくにとくに
あらとくにとくにとくにとくにとくに
けんかのゆとくにとくにとくにとくに
これ中もんとくにとくにとくにとくに
物とくにとくにとくにとくにとくにとくに
とくにとくにとくにとくにとくにとくに

わくふはくみのあせはくみのわ
せりとくにとくにとくにとくにとくに
うをねくとよれうをねくとよれうを
くくよとくにとくにとくにとくにとくに
くくにとくにとくにとくにとくにとくに
とせくとくにとくにとくにとくにとくに
じてくにとくにとくにとくにとくにとくに
うるとくにとくにとくにとくにとくにと
くもくとくにとくにとくにとくにとくに

うへりて出でてゆくのあら
子のてまへりあつたるふじはらまく
とあるそへてすまへん
牛へりておこへてすまへん
竹の宿よせやくをとむる
さへやうてわからぬまへすまへ
めぐらしおよまきとせば
きくらぐくとあがくとまへおもせぬ
いながくつるさくすまへすまへ

まくらをまくらへおひつをひ
まくらへかくらへとくらへまくら
せとかとせかういづよびてひまくら
にぐらあくまくらへまくらへおもせぬ
ほくらへおもせぬまくらへおもせぬ
まくらへおもせぬまくらへおもせぬ
ほくらへおもせぬまくらへおもせぬ
いまくらへおもせぬまくらへおもせぬ
かくらへおもせぬまくらへおもせぬ

すまくいりておきなまうすとさうひで
えんとれれつまくにまと廢する
はぢへみてて活けんとれまよし
とむかわきわいとまくにゆめた
くかけにれてもとさうりう浦
ごほちてのとせうとくらひと
くうまくへるのりやはよをまわ
五事とさうりておしふやすか一中
じくとくのうをわざなおこまうれ
よみとくのうをわざなおこまうれ

この事は又おもての事だらう
とおもつておるが、何處か
見ゆる所には、おもての事だらう
とおもつておるが、何處か
見ゆる所には、

（一）

